

審査員賞

高校生部門

愛媛県四国中央市

愛媛県立三島高等学校2年

近藤 ありす

希望の言葉

私の将来の夢は、英語の教師になること。この夢は中学校からの夢だったが、やはり高校に入学すると今まで通りの語彙力などだけではダメだった。中学のころより英語の勉強量を増やし、テストに挑んでも良い点数が取れないこともあった。そんなことがありもう英語教師以外のことも考えようかなと思う時があった。そんな時に、高校一年生で英語検定を受け英語の先生が面接練習をしていてお話ししたときに先生に相談すると、

「英語の先生、なってよ。なってよ。なりたいてって思うんじゃないかってなるって思う気持ちの方が大事なんよ」って言ってきてこの言葉で一瞬で私は頑張ろうって思った。つらい時や上手くないかない時はこの言葉を思い出して頑張り、高校一年生最後の期末テストは今まで一番いい結果をとった。でも、その先生が離任することになり泣きながら挨拶をしにいくと、

「最後の英語のテストよ頑張ってたし将来の夢、あきらめんと頑張ってたな。将来、一緒に仕事しましょう」と言ってくれた。私にとって『将来、一緒に仕事しましょう』という言葉は目には見えない宝物だと思っている。この言葉一つで自分は何でも出来そうな気がする。

こんな風に勇気や希望を与えてくれる言葉は私たちの身の回りにたくさん存在している。その反面、言葉の良いものとして使わず、人を傷つけるために言葉を使う人もいる。言葉は深く量り知れない。自分にとってはなんともない言葉でも相手にとっては嫌だと感じてしまうこともある。言葉の使い方一つで言葉の武器ともなりえるのだ。しかし、人を温かくしたり、頑張る力をくれるのも言葉ではないだろうか。

私は、絶対に夢を叶える。そして辛かったりあきらめそうになったときは、思い出すのだ。勇気と希望を与えてくれたあの言葉を。